

伊勢崎スケートセンター

伊勢崎市で幼少時代を過ごした人なら、きつと通ったことがあるだろう。伊勢崎スケートセンター。開館から50年を迎え、いまもなお冬のレジャーを楽しむ子どもたちの元気な声が響く。

伊勢崎の子どもたちが冬でも元気に遊べる場所として開館

業務用の冷凍冷蔵設備をはじめ、ビルや工場、一般住宅などの設備全般の施工を主な業務とする中西工業株式会社。同社がスケートリンクを開館したのは昭和40年のことだった。

初代社長である中西彦太郎氏は北海道出身。冬になれば外で元気に雪遊びをする幼少期を過ごした。けれど伊勢崎市の冬は雪がほとんど降らず、外遊びをしようにもひどい空っ風が吹いている。自身の幼少期を振り返り、伊勢崎の子どもたちに冬の遊び場がないことをとても残念に思った彦太郎氏。「地域の子も冬でも元気に遊べるように」と願った。スケートリンクを作ることにし

た。同社はそれまでも関東、東北、北陸でスケートリンクを施工した実績があり、会社内にスケートリンクを開館することは技術的にはなんら問題なかった。

かくして伊勢崎スケートセンターが開館、彦太郎氏の夢が実現すると同時に、当時としては珍しいスケートを身近に楽しめる施設が誕生した。以来50年、毎シーズン営業を続けており、県内、市内はもとより、埼玉県からも人が訪れ、昨年は25000人の来場があった。

地元の大学生たちによる鮮やかで温かみある壁画

リンクに入ると真っ先に目に飛び込んでくるのが、壁いっぱい描かれた鮮やかな動物たちのイラストだ。これは群馬県立女子

大の美術美術史学科で教鞭をとる山崎真一教授とゼミに所属する学生たちにより制作されたもの。かつては富士山が描かれていたが、壁画を描く職人が廃業し、傷みから白く潰していたという。縁あって山崎教授と学生たちが絵を制作することになったのは平成22年のこと。学生たちにとっては、大きな作品を制作展示できるまたとない機会となり、同センターにとっては瑞々しい感性の壁画を掲げられ、地域の学生たちを応援できるという互いに恵まれたコラボレーションとなった。

動物たちのイラストは大きな壁面を生かし、実物大で描かれている。「リンクは寒いので、暖かく明るいイメージをお願いします」と同センターの竹内千晴さん。デザイン性が高く色合い鮮や

もらえる。館内を明るく彩るだけでなく、子どもたちが喜ぶように考えられている。「今シーズンの通路は伊勢崎をイメージしたデザインにさせていただきました。毎年、明るい施設づくりをお手伝いいただいています」。

料金の値下げやスケート教室で子どもたちが来場しやすい環境に

新しい風を取り入れる一方で、変わらない思いもある。開館当初から子どもたちのための場所を目指し、気軽に利用してもらうためにはどうしたらいいかを考えた末、平成13年には大幅な料金値下げを行った。竹内さんは「経営は厳しいけれど、できる限り利用しやすい料金で続けていきたい

い」と話す。伊勢崎スケートクラブの拠点でもあり、フィギュアスケート選手の育成に励む。指導にあたるのは伊勢崎スケート協会会長の松岡正義さん。指導者として40年以上のキャリアを持つ大ベテランの88歳だ。フィギュアスケートで全日本の大会へ出場するためにパジャネストを受け7級を取らなくてはならない。「7級の選手が2人所属しています」と頼もしい答えが返ってきた。

伊勢崎市からの委託を受けたスケート教室の会場ともなっている。子どもたちの指導にあたる伊勢崎スケート協会スタッフの山田琢也さんは、かつては松岡さんの教え子だったと笑う。「スケ

ート教室は8回講習なので必ず滑れるようになります。だから教える方も楽しいですね」。送迎する保護者からも「子どもが滑れるようになったので2月の教室にも参加させたい」との声が挙がっていた。

子どもたちは保護者に引率されて、あるいは友だち同士でやってくる。時には祖父母が孫の手を引いて来場する姿もあり、3世代でスケートを楽しんでいる様子が見られる。幼い頃、自身も連れられて来場し、滑ったことがあるのかもしれない。50年の歴史を持つ同センターならではの光景だ。これからも年月を重ね、地域の人々の楽しみと思いに長く貢献していくことを願ってやまない。

伊勢崎スケート教室の感想は？ 参加した子どもたちに聞きました

クロスのコツが前よりわかるようになり、片足滑走の距離も伸びてきました。

楽しいのは、教室の最初と最後は大きくリンクの中を回るということです。

小1の頃からこのリンクに通っていました。この教室で友だちができたのが嬉しいです。

菅生日美さん(小5) 菅生十輝くん(小2) 岩崎みんさん(小5)

伊勢崎スケートクラブの皆さんと松岡正義先生

「フィギュアはスピードスケートと違い、競争相手が見えない。広いリンクを1人で滑るため自分に滑つ、向かっていく気持ちが大切です」と松岡さん。現在は11歳～12歳を中心に6人が所属している。



フジテレビで動画をチェック!

伊勢崎スケートセンター利用料金

料金表	入場料	貸靴 (15~30cm)	計
子ども	400円	100円	500円
中高生	500円	200円	700円
大人	700円	300円	1,000円

伊勢崎市今井町732-1 (中西工業株式会社内) TEL.0270-25-5460
営業時間: 8:30~20:00 利用時間別料金なし
3月31日(木)まで営業、期間中無休



株式会社伊勢崎スケートセンター 副社長 竹内千晴さん

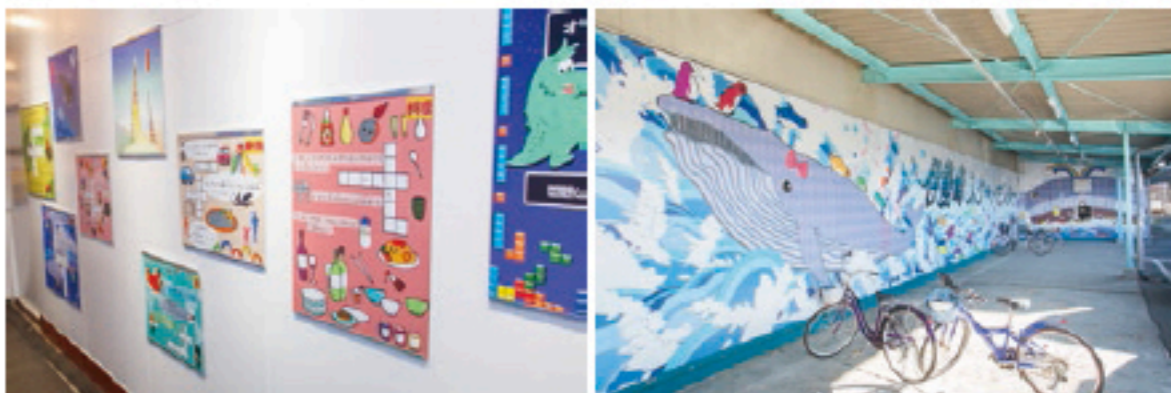
かな壁画を背景に、色とりどりのウェアを身に付けた子どもたちが滑走を始めると、生き生きとして楽しい様子が一層引き立つ仕上がりとなった。

この壁画制作をきっかけに、スケートセンターの建物外壁のタジラの絵や入口を入ってすぐの壁画、クイズパネルなども学生たちが手掛けるようになった。パネルクイズは正解すると景品が

群馬県立女子大の山崎教授とゼミ生たちによる壁画。向かって左の壁面には犬や羊などの身近な動物たちが並び、徐々に場面は世界へと変わる。正面には溢力あるアフリカの動物たち



文/小林美佐子 写真/株式会社ファイブゾーン デザイン/伊藤剛志



群馬県立女子大の学生たちによるクイズパネル

センターの正面入り口と側面にはタジラの絵